

ふう けい き こう
風景紀行
入笠山
 66
 南信森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

入笠山

「南信署」入笠山は富士見町と伊那市に跨る標高一、九五五メートルの山で、南アルプスの一部です。南アルプスとは違って、甲斐駒ヶ岳や北岳などと違い、草原やのどかな放牧風景が広がり山頂近くまでゴンドラが延びており、子どもや初心者でも気軽に登山を楽しむことができます。

またなんとと言っても、山頂は八ヶ岳、奥秩父連峰、富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプスと日本の屋根が連



入笠山山頂

なる360度の大パノラマが広がっていることです。

入笠山は、高山植物の宝庫と呼ばれるほど花の種類が多く、四季折々の花々が訪れる人を楽しませてくれます。春の訪れは遅く、五月に入りようやくザゼンソウが顔を出します。六月、雨に煙る湿原を埋め尽くすように咲くスズランは八〇万株以上とも言われています。スズランというと普段目にするものはヨーロッパ産のドイツスズランですが、入笠山に自生するものは日本スズランで葉の下に隠れるように咲く小さな花が特徴です。日本固有のスズランの群生は珍しく、多くの方が訪れます。花の開花に合わせてマイカー規制が行われるため、登山者は車を気にすることなくゆつくりと散策を楽しむことができます。この季節には、クリンソウやレンゲツツジ、ズミなど本格的な夏の始まりを感じさせます。

七月・八月上旬まではクサレダマ、オミナエシ、ヤナギラン、マツムシソウ等々最も花の種類が多く、二週間ごとに咲き変わって違った景色を見せてくれます。秋の訪れも早く八月下旬ともなれば、湿原に風が立ち、エゾリンドウやノコンギクが花の季節の終わりを告げます。

入笠山は、ゴンドラ駅から御所平駐車場あたりまでの一带に林間、湿原、草原が存在するために植物の種類が非常に豊富なことで知られています。また、真夏の太陽の下で咲き誇る花も、霧や雨の中に幻想的に浮かぶ花もそれぞれの美しさで魅了します。

冬の季節、夏の花の美しさから神秘的な雪山へと姿を変えます。現在、密かなブームとなっている「スノートレッキング」。今までクロスカントリーでしか行けなかった場所へスノーシューで行けるようになったことから、冬の山へ出かける人が多くなってきました。入笠山は、ゴンドラを利用すれば往復三時間ほどの雪山を楽しむことができます。山頂からの景色も冷たく澄んだ空気の中、山々の白い稜線が神秘的な輝きを見せます。



上：スズラン
 下：ヤナギラン

◆アクセス

《所在地》長野県 諏訪郡富士見町 伊那市

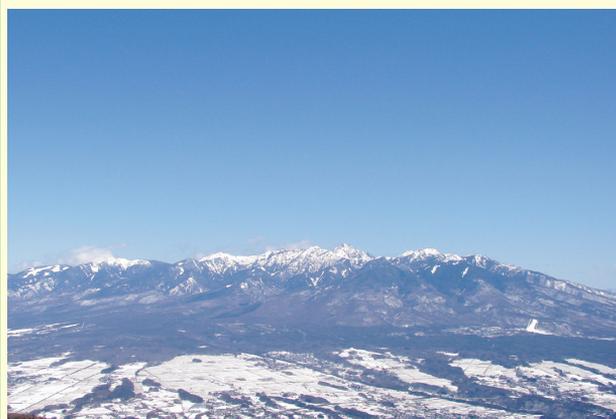
○車でお越しの場合（マイカー規制あり）

中央道諏訪南ICから富士見パノラマリゾートまで約七分

富士見パノラマリゾートからゴンドラ利用で約十分

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央線富士見駅で下車し、タクシーで約二十分



見晴台から八ヶ岳を望む



入笠湿原

なお、マイカー規制中は富士見駅から富士見パノラマリゾート行き無料バスが運行。